

おおこうち内科クリニックの理念

私たち、おおこうち内科クリニックは、
普通でない医療・サービスを提供するクリニック
を目指して、下記の高い理念のもとに、
医療・サービスに積極的に取り組んでいます。

総論

1. 患者様に対して快適な医療を提供できる
『心地良いクリニック』であること
2. 困った時に、安心・確実な医療を提供できる
『頼りになるクリニック』であること
3. 働くスタッフが自分たちの仕事に誇りと
やりがいを持つ
『自慢のクリニック』であること

各論

1. 一人ひとりの患者様を大切にし、優しい丁寧な対応を心がけます。
2. 心からの笑顔を大切にし、感謝し感謝される心をもって接します。
3. 正確な知識・技術を元に、大病院では真似できない患者様目線の良質な医療を実践するように心がけます。
4. 医療のプロフェッショナルとして、常に向上心を持ち、知識と技術の研鑽に励み、皆様に安心して受診してもらえるように心がけます。
5. 患者様からのどのような質問にも、丁寧な分かりやすい説明を心がけます。
6. スタッフ相互の連携を深め、スムーズで優しい診療を心がけます。
7. 皆様に信頼されるクリニックを目指し、医療を通じて地域や社会に貢献します。

Okochi Naika Clinic Philosophy

At our clinic, we strive to provide
unusually high-quality medical care and service
based on the following philosophy.

General Aims

1. To be a **friendly clinic** that provides patients with comfortable medical care
2. To be a **reliable clinic** that offers safe, reassuring medical care in times of need
3. To be a **proud clinic** with staff who take pleasure and pride in their work

Ideals

1. We strive to treat every patient with kindness and respect.
2. We value a genuine smile and readily express or receive gratitude.
3. Based on accurate knowledge and skills, we provide the kind of patient-oriented care that larger hospitals cannot give.
4. As ambitious medical professionals committed to improving our knowledge and skills, we strive to earn people's confidence so that they will come to us for an examination.
5. Whatever our patients ask us, we endeavor to explain in a polite, easy-to-understand way.
6. We try to strengthen cooperation between our staff in order to deliver smoother, more friendly healthcare.
7. We aim to be a widely trusted clinic by contributing to the community and society through medical care.

我々は、個々が、感謝し感謝される心を持ち、医療知識と技術の研鑽に励み医療のプロフェッショナルとして高いレベルの医療を提供すること、そのことでスタッフは自分たちの仕事に誇りとやりがいを持ち人として大きく成長すること、そして、究極的には、皆様に信頼・期待され医療を通じて地域や社会に貢献することを目標にしています。

そのために、

「普通でない医療と、感動を呼ぶホスピタリティサービスを提供するクリニックを作り上げること」

を最終目標に掲げています。

この考えに行き着くにあたって、京セラの稲盛和夫氏の理念に出会い、大きな共感を得ました。そして、それを根幹とし、上記の当院独自の目標を掲げました。

稲盛和夫氏は、京セラフィロソフィとして、多くの経営者がお手本とする下記の経営理念を掲げており、ご参考までに紹介しておきます。

(京セラフィロソフィ, 稲盛和夫著 サンマーク出版より抜粋)

「全従業員の物心両面の幸せを追求すると同時に、人類社会の進歩発展に貢献すること」

—私たちが目指す物心両面の幸福とは、経済的な安定や豊かさを求めていくとともに、仕事の場での自己実現を通して、生きがいや働き甲斐といった人間としての心の豊かさを求めていくものです。

—また、私たちは常に技術を磨き、次々にすばらしい製品を世に送り出していくことによって、科学技術の進歩に貢献するとともに会社として利益を上げ続け、多くの税金を納めることなどを通じて公共の福祉の増進に貢献していくのです。

別に、企業に働く者として、また、人間として、お手本にすべき考え方である、稲盛和夫氏が掲げる「6つの精進」も大きく共感し目標とするところであり、下記に紹介しておきます。

(稲盛和夫オフィシャルサイト:

<http://www.kyocera.co.jp/inamori/management/devoted/>

より抜粋)

<p>努力 Effort</p>	<p>謙虚 Humbleness</p>	<p>反省 Reflection</p>
<p>誰にも負けない 努力をする ▶</p>	<p>謙虚にして驕らず ▶</p>	<p>反省のある毎日を送る ▶</p>
<p>感謝 Thankfulness</p>	<p>善行 Benevolence</p>	<p>感性 Sensibility</p>
<p>生きていることに 感謝する ▶</p>	<p>善行、利他行を積む ▶</p>	<p>感性的な悩みをしない ▶</p>

①誰にも負けない努力をする。

より充実した人生を生きていこうとするならば、人一倍努力を払い、仕事に一生懸命打ち込まなければなりません。

自然界に生きている動植物はみな、必死に生きています。我々人間もまた、まじめに、一生懸命に働くということが、生をうけたものとしての最低の務めであろうと思います。

そのためには、まず仕事を好きになることが大切です。好きであればこそ仕事に没頭することができます。またよりよいものを目指そうという気持ちも生まれ、自然に創意工夫をするようになります。

仕事に惚れ込み、夢中になり、人並み以上の努力をする。この誰にも負けない努力がすばらしい結果をもたらしてくれるのです。

②謙虚にして驕らず。

中国の古典に「ただ謙のみ福を受く」という言葉があります。人は謙虚にして初めて幸福を受けることができるという意味です。

世間では、他人を押しつけてでも、という強引な人が成功すると思われがちですが、決してそうではありません。成功する人とは、内に燃えるような情熱や闘魂を持っていながら、謙虚で控えめな人物です。このような謙虚さを持って生きることが大切なのです。

しかし、そのような人でも、成功し、高い地位につくと、謙虚さを忘れてしまい、傲慢になることがあります。若い頃は、謙虚に努力をしていた人が、知らず知らずのうちに慢心し、人生を踏み誤ることさえあるのです。

「謙虚にして驕らず」。このことを、深く心に刻んで、生きていくことが必要です。

③反省のある毎日を送る。

一日を終えた後、その日を静かに振り返り、反省をする習慣を持ちましょう。

例えば、その日の行いが、「人に不愉快な思いをさせなかったか」「不親切ではなかったか」「傲慢ではなかったか」「卑怯な振る舞いはなかったか」「利己的な言動はなかったか」と振り返り、人として正しいことを行えたか問いかけてみます。もし自分の行動や発言に反省すべき点があれば、改めなければなりません。

反省のある毎日を送ることは、人格を向上させ、人間性を高めていくことにつながります。日々の反省が、自分の悪い心を抑え、よい心を伸ばしてくれるからです。常に進歩向上できる人は、「反省のある毎日」を送っている人なのです。

④生きていることに感謝する。

人は自分一人では生きていけません。空気、水、食料、また家族や職場の人たち、さらには社会など、自分を取り巻くあらゆるものに支えられて生きているのです。そう考えれば、自然に感謝の心が出てくるはずですが、不幸続きであったり、不健康であったりする場合は「感謝をしなさい」と言われても、無理かもしれません。それでも生きていることに對して感謝することが大切です。

感謝の心が生まれてくれば、自然と幸せが感じられるようになってきます。生かされていることに感謝し、幸せを感じる心によって、人生を豊かで潤いのあるものに変えていくことができるのです。

いたずらに不平不満を持って生きるのではなく、今あることに素直に感謝する。その感謝の心を「ありがとう」という言葉や笑顔で周囲の人たちに伝える。そのことが、自分だけでなく、周りの人たちの心も和ませ、幸せな気持ちにしてくれるのです。

⑤善行、利他行を積む。

中国には「積善の家に余慶あり」という言葉があります。これは善行を積んできた家には、よい報いがあるということです。

世の中には因果応報の法則があり、善きことを思い、善きことを実行すれば、運命をよき方向へ変えることができます。当然、仕事もよい方向へ進めていくことができます。

善きこととは、人に優しくあれ、正直であれ、誠実であれ、謙虚であれ、などという人として最も基本的な価値観です。

昔から「情けは人のためならず」と言われていますように、善きことを積み重ねていくことで、私たちの人生もよりよいものとなっていきます。

⑥感性的な悩みをしない。

人生では、誰でも失敗をしますし、間違いを起こします。しかし、そうした過失を繰り返しながら人は成長していくのですから、失敗をしても悔やみ続ける必要はありません。

「覆水盆に返らず」という言葉がありますように、一度こぼれた水は元に戻りません。起こってしまったことを、いつまでも思い悩んでいても何の役にも立ちません。それどころか心の病のもとになり、人生を不幸なものにしてしまいます。

自分のどこが悪かったのかは反省しなければなりません、十分に反省した後は、くよくよせずに新しい道を歩み始めることが大切です。

済んだことに対して、いつまでも悩み、心労を重ねるのではなく、理性で考え、新たな行動に移るべきです。そうすることが、すばらしい人生を切り拓いていくのです。